



学校だより

後川

No. 7

令和2年8月7日(金)発行

四万十市立後川中学校

地域への感謝 心をこめてライトアップ!

7/25(土)、恒例の「ライトアップ」が開催されました。今年は新型コロナウイルスの影響で食べ物は中止し規模を縮小した内容でした。そのうえ、前日は雨天、当日の天気予報も大雨と開催が心配でしたが、当日は天気に恵まれ予定どおり行うことができました。

当日は朝から生徒が協力して会場や出し物、ライトアップの準備を行いました。『地域への感謝』をテーマに、地域の方々が喜んでもらえるように生徒全員がアイディアを出し合いながら準備を進めてきました。各学年の夜店や歌、盆踊り、じゃんけん大会などみんなが楽しめるよう、短い準備期間のなかでやりきることができました。校内を巡ってのスタンプラリーも大好評でした。ライトアップでは「良心」の文字が見事に浮かび上りました。生徒たちは企画・準備、運営と大忙しでしたが、最後まで笑顔で心をこめてやりきることができました。チーム後川としての団結を見事に披露してくれました。

当日は保護者や地域の皆様が大勢来てくださいありがとうございました。受付名簿では123名のお客様に来ていただきました。子どもたちへの温かい励まし、応援に心から感謝申し上げます。また、小中学校の保護者の皆様には受付や消毒、ジュースの販売はじめ後片付けなど最後までご協力いただき本当にありがとうございました。



平和な世界に向けて～平和登校日

広島被爆75年を迎えた8/6(木)、生徒たちは平和学習を行いました。オバマ前米大統領が広島を訪れた際の演説や被爆者のインタビュー等をDVDで見ました。オバマ大統領の演説を通して「平和の尊さ、戦争の悲惨さ、核廃絶の実現」について、それぞれがじっくり考えることができました。平和な世界をつくるために、自分たちが事実を正しく知ることや体験者のいろいろな思いを受け、引き継ぎ、戦争をなくしていくことを確認しました。一人一人の思いをつなぎ、核のない平和な世界を必ず実現させていきましょう。



今後の日程

- 8月23日(日)愛校作業・廃品回収
- 8月25日(火)2学期始業式
- 9月19日(土)保小中合同運動会(午前中)

【裏面に高知新聞に掲載されたライトアップ記事を紹介します。】



R2.7.27(月)高斎

四万十市

後川中生 住民招き祭り

日頃の感謝伝えたい

【幡多】感謝を込めておもてなし。

四万十市利岡の後川中学校の全校生徒10人が25日、住民や保護者を招りに招待した。会場は約100人でにぎわい、生徒が開いた夜店や校庭のライトアップを楽しんだ。

総合的な学習の講師役など、日頃から学校活動に協力している住民らへの感謝の気持ちを込め、生徒主体で企画。6回目の今年は、消毒や検温といった新型コロナウイルス対策にも気を配り開催した。

卒業生に懐かしんでもらおうと、校内を巡るコースで行われたスタンプラリーは、スタンプを五つ集めると「ありがとう

なさい」。四万十市利岡の後川中学校では生徒や子どもが輪になって盆踊りを楽しみ、「良心」の文字に並べたろうそくをともし祭りを締めくくった。住民らは「子どもが頑張る姿を見るのはえいね」「元気をもらえた」とうれしそうだった。

3年の弘田早絵さん(14)は

「小さい子が一生懸命踊つてくれて、地域の人もニコニコ。喜んでらえたと思つ」。田来実さん(15)は「今まで一番盛り上がつたと思うし、めっちゃうれしかった」と笑顔で話していた。

「ライトアップ」の開催当日、3年生を中心にお高知新聞の取材を受けました。その記事が7月27日(月)と8月4日(火)に高知新聞に掲載されました。

徒10人の学校に、100人以上の住民が集まり、大盛り上がりだつた。祭りのにぎわいを見ながら、地元男性がつぶやいた。

校庭に並ぶろうそくが、温かな光で周囲を照らす。地域の人々に日頃の感謝を込め、四万十市の後川中学校の生徒が開いたライトアップイベント。全校生徒が集まり、大盛り上がりだつた。

も思える問い合わせ

た。

な光で周囲を照らす。地域の人々に日頃の感謝を込め、四万十市の後川中学校の生徒が開いたライトアップイベント。全校生徒が集まり、大盛り上がりだつた。祭りのにぎわいを見ながら、地元男性がつぶやいた。

校庭に並ぶろうそくが、温かな光で周囲を照らす。地域の人々に日頃の感謝を込め、四万十市の後川中学校の生徒が開いたライトアップイベント。全校生徒が集まり、大盛り上がりだつた。祭りのにぎわいを見ながら、地元男性がつぶやいた。

も思える問い合わせ

た。

つなぐ気持ち

先人

が大切にしてきたもの。それを知り、これからも大事にすることを。子どもの声が消える。「おじいちゃんたちは悲しむ。何ができるのかな」。自分たちを慈しんでくれた「地域」の力になる方法を、「子どもたちは一生懸命に考えていました。

「生徒が『地域のために中学生が果たせる役割は何か』と聞いてくれたんです」。男性は、地元のことをもつと知つて、と答えたそうですが、「そんなふうに考えててくれる気持ちがうれしかった」。

朗らかな生徒の様子からすると意外な切羽詰まったように

思ひが、その第一歩になる。

(幡多・平野愛弓)